

令和7年度 学校関係者評価委員会 評価書

札幌市立大谷地東小学校

1. 今年度の重点目標
「進んで取り組み 思いやり 高め合う 子の育成」～やってみよう自分から やりとげよう 仲間とともに～
2. 評価のポイント
1)創意ある教育の推進 2)子どもを育てる活動 3)研修活動の充実 4)安心安全な学校づくり 5)教育活動を支える環境づくり
3. 自己評価 A よい(85%以上達成) B だいたいよい C もうすこし(達成度60%以下)

分野	評価項目		自己評価	改善の方策	評価の適切さ	改善策の適切さ
① 重点目標	1	「やってみよう自分から やりとげよう 仲間とともに」の意識が、子どもの具体的な姿として表れているか。	A	子ども一人一人が「自分から」やってみようとする場面を意図的に設けていく必要がある。失敗を恐れず挑戦したいと思える教師の関わりや子どもの頑張りを温かく支える学校体制をさらに図っていく。	A	A
	2	「子ども一人一人が『自分が大切にされている』と実感できている」ことが、子どもの具体的な姿として表れているか。	A	担任だけでなく、より多くの教職員が子どもたちと関わり、小さな頑張りに対しても褒めることを大切にしてきた。日々の授業の中でも仲間の考えを共感的に受け入れ、互いに尊重し合える人間関係を構築していく。	A	A
学校関係者による意見		・腹痛を訴えた同級生に優しく寄り添い一緒にトイレまで付き添う1年生の姿を通して、思いやる気持ちをもちながら日々の生活も大切にしていると感じた。 ・担任外の先生方の子どもたちへの関わり方は、とてもありがたいとの声も聞いており、保護者としても安心につながっている。 ・相談する先が一つではないことは、とても全方向に有効だと感じる。				
② 学ぶ力の育成	3	日々の授業を通して、進んで学びに向かう姿勢を育てているか。	A	「進んで考えを発現する」という姿勢を高めるために、発表や話し合いの場の設定をしっかりと設けることが大切である。伝え合うよさを実感できるような授業を構築していく。	A	A
	4	ICTを学習に有効活用することで、子ども一人一人の学びを深めることができているか。	B	毎日使用することで、「文房具」の一つとして子どもたちにとって身近なものとなっている。手軽に予習や復習ができるのはよいが、子ども任せにならないよう注意を払うとともに、ノートやワークシートに書くといった取組も大切にしながら、バランスよく活用していく。	A	A
	5	ブロック研(授業づくり、授業参観、研究討議)や校内のミニ研修の内容は、教職員の学びの場として機能しているか。	A	「授業で子どもを育てる」という意識をもち、日々の授業改善のための研修を設定していくことが大切である。授業を通して子どもたちがどう受け止めているかを確認めながら、引き続き授業改善に努めていく。	A	A
学校関係者による意見		・子どもたちがICTを使いこなせている姿が見られた。 ・プログラミングやICTを活用した、想像力が増大する教育に力を入れてほしい。 ・タブレット端末に関しては、保護者としても取り扱いに関して不安なところがある。扱いに慣れている世代ならではの使い方もあるようなので、保護者もしっかりと子どもや学校に任せきりにならない工夫が必要なのではと感じている。				
③ 豊かな心の育成	6	運動会や学習発表会などの行事に、一生懸命取り組む姿が表出しているか。	A	目指す子どもの姿を共有し、行事の後の振り返りを大切にしながら進めていく。次年度への意欲へとつながるよう、学校全体として関わりを大切にしていく。	A	A
	7	異学年交流に楽しく参加し、他者と関わろうという姿が見られるか。	A	「つながり」の中で感じる一体感や達成感を感じさせることで、「自分が大切にされている」時間を高めていく。中心となって活動を進めた子どもたちをしっかりと褒め、次なる自信へとつなげていく。	A	A
	8	委員会活動やクラブ活動に進んで取り組み、友達と協力して活動している姿が見られるか。	A	互いを認め合い助け合う心をさらに育めるよう、活動の時間を大切にしていく。限られた時間が充実したものとなるよう、引き続き見通しをもって計画していく。	A	A
	9	係活動や当番活動にしっかり取り組んでいる姿が見られるか。	A	役割を果たそうとする子どもたちの姿勢を認め、自己肯定感を高めていく。学年の発達に見合った係活動であるかどうか、精選していく。	A	A
	10	朝読書など、本に親しんでいる姿が見られるか。	A	登校時刻を守り、10分間の読書の時間をきちんと確保していく。子どもが興味ある分野や学習に関わる本を寄託図書で借りて読むなど、本選びの工夫も図っていく。	A	A
	11	進んで挨拶をしている姿が見られるか。	A	よい挨拶の仕方をその場で褒め、素敵な挨拶の輪が広がっていくように働きかけている。 子ども同士、教職員、保護者、地域の方、誰に対しても挨拶をすることが当たり前になるよう大人が範を示していく。	A	A
	12	自分や周りの人を大切にし、みんなと仲良く過ごす姿が見られるか。	A	学習時間だけでなく、生活の中で交わす言葉や関わり合いも、相手を思いやる温かいものとなっているか継続して指導していく。間違った言動や態度については、一緒に考えながら間違いに気付かせ、子ども同士が「ありがとう」「ごめんなさい」を素直に言い合える人間関係を育てていく。	A	A
	13	子どもたち自身が、いじめは絶対にいけないことだという認識をもてているか。	A	自分の何気ない行動が相手を傷つけてしまうこともあることや、どんな理由があってもいじめはいけないという指導を継続していく。未然防止・早期解決に向け、校内で情報共有し、いじめ根絶に向けて組織で対応する。	A	A
学校関係者による意見		・大谷地東小の子どもたちは、いつも必ず挨拶をしてくれて、とても気持ちがよい。 ・挨拶に関しては、高学年になるにつれ、進んで取り組む難しさがあるが、地域の目も意識してもらえるよう今後とも声を掛けていきたいところである。 中学生になっても地域の方と挨拶を交わしている姿を見て、素敵だなと感じている。そんな子どもたちに育ってほしい。				
③ 健やかな体の育成	14	休み時間に、進んで外で遊んだり活動したりしている姿が見られるか。	B	引き続き、環境整備を継続しながら、子どもたちが体を動かす機会を増やしていく。冬期間は、高学年も積極的に外遊びをしようとするような工夫を学校として行っていく。	A	A
	15	時間を守って行動したり、廊下や階段を正しく歩いたりするなど、学校の決まりを意識して生活する姿が見られるか。	A	登校時間帯や、授業、休み時間、給食・掃除時間など、開始時刻や終了時刻について学校全体としてメリハリある学校生活を今後も心掛けていく。	A	A
学校関係者による意見		・休み時間に友達と仲良く元気にグラウンドで遊んでいる活動は、放課後や休みの日の公園遊びにもつながっていてよい。 ・低学年を中心に遊びながら登下校をしている子も多くみられるので、心配な場所を共有し、地域としても見守っていきたい。 ・冬期間の登校時は、やはり道が歩きにくかったり細かったりで、時間がかかっている様子なので、今後も声を掛けて地域でも見守っていかれたらと思う。				